

透析患者の旅行OK

21宿泊施設が対応

外泊を伴う旅行が難しい人工透析が必要な人たちに、旅先で透析を受けてゆくりと観光を楽しんでもらうモデルツアーが十六日から十八日まで、志摩市であった。人工透析者の受け入れに取



海女小屋体験を楽しむ(右から)山手由三夫さんと天野星二さん=志摩市志摩町越賀で

り組む観光地は全国的にも珍しく、主催した伊勢鳥羽志摩交流フロントコンソーシアムは「福祉観光のひな型として全国に広がれば」と話している。同コンソーシアムは、伊勢志摩地域の観光関係者やNPO法人伊勢志摩バリアフリーーツアーセン

ターなどで構成。経済産業省の委託を二〇〇五年度から受け、福祉観光のプラン作りに取り組んでいる。宿泊施設を対象にした透析者受け入れの研究などを行い、現在二十一施設が対応。モデルツアーは昨年六月に伊勢、鳥羽市でも実施した。



小さな親切

3人と8団体表彰

障害者支援や清掃

「小さな親切」運動県本部は十八日、津市岩田の百五銀行本店で障害者支援や清掃奉仕活動など、心温まる活動を長年続けている県内の三人と

「メディア自身監視を」

容疑者扱い 河野さん 松本サリン事件講演



第一通報者だった河野さんは、自身も家族も入院する被害に遭いながら、長野県警の任意の事情聴取で自らを強要された

り、報道被害に遭った。自宅には一日三十件もの無言電話や「一人殺し」という電話があり、オウム真理教の犯行と分かるまでの一年近く、大きな苦しみを味わった。

た」と批判。その後も「推定有罪」の報道がある」と指摘し「メディアは自身で監視していかないと法で縛られてしまふ。法で縛られたメディアは価値がない」と述べた。

情報を受け取る時は「多くの情報から切り取られた事実」という認識で接するよう訴えた。会場には約二百五十人が詰めかけ、河野さんの生々しい体験談を熱心に聞いていた。(境田末緒)

桑名市の人権講演会が十八日、同市長島町の長島公民館であり、一九九四年の松本サリン事件で容疑者扱いされた元長野県公安委員の河野義行さんが「松本サリン事件報道の罪と罰」と題して講演した。写真。

講演では、数々の誤報や過熱報道の例を挙げながら、環境振興会が石灯籠

は十八日、協定を締結した。環境振興会が石灯籠

を撤去新設し、市観光協会が所有権を無償で譲り受けて維持管理する。

の寄付で賄つという。金額の内訳は「道路占用許可が下りた時などに公表する」と明言を避けた。

伊勢の石灯籠で協定

観光協と神宮環境振興会

伊勢市内の国、県、市を撤去新設し、市観光協会が所有権を無償で譲り受けて維持管理する。環境振興会の田中勲会長が、締結後に市役所で会見した。撤去新設、管理委託など総額五十億六十億円を見込む。公的補助を求めず、全国から

(石